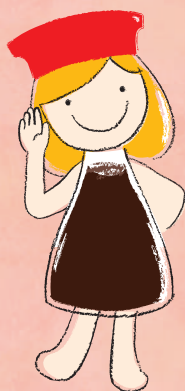




# 弁当の日

おいしい記憶の  
エピソード募集

## 受賞作品集 2022



- 主催 株式会社共同通信社
- 共催 全国小学校家庭科教育研究会  
全日本中学校技術・家庭科研究会
- 特別協賛 キッコーマン株式会社
- 協賛 日清オイリオグループ株式会社
- 後援 文部科学省

(株)共同通信社では、小中学生を対象に、「弁当の日おいしい記憶のエピソード」として学校で取り組んだ「弁当の日」の経験や、自分で料理をした体験を作文にまとめ、写真や絵と合わせて募集しました。今年度は全国から小中学校合わせて2704点の作品が寄せられました。審査の結果、受賞作品が決定いたしましたので、まとめてご紹介いたします。



## 受賞作品

賞	都道府県	学校名・学年	氏名	題名
文部科学大臣賞	新潟県	三条市立第四中学校 2年	矢坂 晟太郎	特別なお弁当
キッコーマン賞 小学生の部	鹿児島県	与論町立与論小学校 3年	清藤 碧依	おうえん弁当
キッコーマン賞 中学生の部	東京都	晃華学園中学校 3年	大橋 美月	お弁当の力
日清オイリオ賞	山形県	村山市立葉山中学校 3年	元木 月	お弁当の力
共同通信社賞	北海道	札幌市立平岸高台小学校 4年	藤井 雄大	ぼくは卵焼き職人
全国小学校家庭科教育研究会賞	沖縄県	伊江村立伊江小学校 6年	平田 知友楽	弁当の日をきっかけに
全日本中学校技術・家庭科研究会賞	福岡県	志免町立志免中学校 1年	稲永 こはる	マスキングテープとお弁当
賞	都道府県	学校名・学年	氏名	題名
特別賞 小学生の部	宮城県	気仙沼市立唐桑小学校 3年	千葉 直大朗	ぼくのとくせいコロッケをごちそうしよう
特別賞 小学生の部	東京都	成城学園初等学校 2年	林 誠ノ亮	ちやあちゃんのためのバースデイ弁当
特別賞 小学生の部	東京都	江戸川区立平井西小学校 5年	舘沼 由人	人生初！のりまき弁当
特別賞 小学生の部	奈良県	田原本町立南小学校 6年	早水 天門	お弁当の日
特別賞 小学生の部	香川県	綾川町立滝宮小学校 4年	宮崎 柚茉	弟のために時間をかけて作ったりにゅう食
特別賞 中学生の部	秋田県	大仙市立仙北中学校 3年	鈴木 万葉	食と人とのつながり
特別賞 中学生の部	茨城県	江戸川学園取手中学校 2年	鎌田 彩姫	おじいちゃんの味
特別賞 中学生の部	東京都	東京農業大学第一高等学校中等部 3年	大木 新	タチウオの料理
特別賞 中学生の部	東京都	町田市立真光寺中学校 1年	栗田 夏帆	魔法の宝石箱
特別賞 中学生の部	沖縄県	浦添市立浦添中学校 2年	松田 蓮那	お姉ちゃんの野菜炒め
特別賞 中学生の部	沖縄県	竹富町立鳩間中学校 2年	林 圭太	鶏からのクリスマスプレゼント
学校賞 小学校	鹿児島県	枕崎市立枕崎小学校		
学校賞 中学校	山口県	岩国市立玖珂中学校		

審査員 (敬称略 50音順)	氏名	所属
	井上 かなえ	料理ブロガー・料理家
	大津山 厚	キッコーマン株式会社 執行役員 コーポレート政策推進担当部長
	加園 正子	全国小学校家庭科教育研究会 会長
	竹下 和男	子どもが作る弁当の日提唱者
	不破 浩一郎	一般社団法人共同通信社 文化部記者
	矢島 加都美	全日本中学校技術・家庭科研究会 副会長
	安武 信吾	ドキュメンタリー映画「弁当の日」監督・「はなちゃんのみそ汁」著者

※ 応募作品はなるべく原文に忠実に、誤字脱字のみを修正しました。

## 👑 文部科学大臣賞 👑



矢坂 晟太郎 (三条市立第四中学校 2年)

### 特別なお弁当

十四才、中学二年生の僕は、食べる事が大好きだ。しかし未だラーメン店に行った事がない。レストランでパスタやケーキを食べた事もない。そう、僕には食物アレルギーがあるのだ。卵と小麦を口にするると体に反応が出てしまう。最近ではほんの僅かなら食べられるようになってきたが、小さい頃は完全に小麦・卵を除去した食事を取っていた。

僕が通っていた幼稚園は園内で給食を調理している所だった。昼近くになると園は美味しい香りに包まれる。だが残念ながら僕は皆と同じ給食を食べることが出来ない。調味料一つ取っても小麦・卵が使用されていることが多いからだ。醤油の原材料は大豆、塩、そして「小麦」だ。園には毎日お弁当を持って行った。母が小麦・卵を除去しながら給食メニューそっくりのおかずを手作りし、詰めてくれたもの。煮物、揚げ物、野菜の和え物にみそ汁。「お楽しみメニューはハンバーガー」なんて日は米粉でパンを焼き、ハンバーグをサンドして持たせてくれた事もあった。「みんなには内緒だけど晟太郎のだけはダブルバーガーよ」と嬉しく楽しい秘密を忍ばせて。

家族の協力のお陰で僕は食に対し卑屈になったり消極的になったりすることなく、これまで伸びやかに食事を楽しんできた。好き嫌いも殆ど無い。体も心も大きく育ててもらったと大変感謝している。

この夏休み、幼稚園時代の小麦・卵完全除去食弁当を自分で調理し再現してみた。まずは出汁から。顆粒出汁には小麦が使われていることがあるので、鰹節から出汁を引く。醤油は使えないので塩やみそ、三温糖などで味付け。胡麻や塩昆布、梅干しを薬味に入れると風味が付いて美味しい。鶏の揚げ物は衣を小麦・卵ではなく片栗粉にして竜田揚げにすれば立派すぎるほどのメイン料理だ。除去食もアイデア次第で美味しい物が沢山作れる。母の工夫を色々聞かせてもらいながら調理していると懸命に僕を育ててくれた母の気持ちが伝わってきた。栄養に不足が無いように。美味しく味わってくれるように。そして、誤食をすれば命に係わる事故となるため、間違いが決して無いように。

まだ、暫くはラーメン店に行けそうにない。だから僕が家でラーメンを作ろうと思う。雑穀麵を使い、スープはみそ味にしよう。ごま油で風味を付けようか。家で育てた野菜もたっぷり乗せよう。そして家族みんなで温かな気持ちを笑顔で味わおう。

## 👑 キックマン賞 👑



清藤 碧依 (与論町立与論小学校 3年)

### おうえん弁当

「だれにお弁当を作ろうかな。」わたしが言いました。近くにいたお父さんがすぐに、「お父さんに作って。」と言いました。お父さんは、小学校の先生です。夏休みはきゅう食がありません。だからお昼ごはんはたいへんです。わたしはお父さんに、何を入れてほしいか聞いてみると、ウインナー、からあげ、たまごやきをリクエストされました。わたしは、「自分の好きなものと同じだ」と思い少しうれしくなりました。

次の日、わたしははりきってお弁当を作ろうと思ってれいぞうこを開けてみるとざいりょうが足りませんでした。なのでまずスーパーへ買い物に行きました。かんせいしたお弁当をそうぞうして、わくわくしながら買い物ことができました。

いよいよお弁当作りです。まず、たまごやきをやきました。はじめてだったから、ドキドキしたけれど、お母さんのお手本を見てやり方をおぼえて、自分で何回もクルクルたまごをまきました。

次に、ウインナーをやきました。ほうちょうでななめに切りこみをいれました。ふかく切らないようにするのが、少しむずかしかったです。フライパンにウインナーを入れてやきました。すると、切ったところが少しずつわれてきておいしそうなおいがしました。

それから、おにぎりをにぎりました。味はゆかりとうめぼしです。わたしが好きなおにぎりを食べてほしいからこの味にしました。

さい後にはたを作りました。おり紙に「ファイト!!!」や「がんばれ!!!」とメッセージを書いてつまようじにつけました。お弁当を開けたときにちょうど見えるようにくふうしてさしました。

空っぽになったお弁当箱を見るとわたしは、おうえん弁当を作ってよかったなという気持ちや、お父さんありがとうと思って、食べてくれた気持ちがつたわってきました。だれかにお弁当を作るのは大へんだけど、相手のことを考えたり、よろこばせたりすることがとても楽しいので、また来年も作りたいです。次はお母さんに作ってあげたいです。

## 👑 キックマン賞 👑



大橋 美月 (晃華学園中学校 3年)

### お弁当の力

私が中一の頃、些細な事でお母さんと喧嘩をした。お母さんはいつも四時半に起床し私のお弁当を作ってくれていた。ある日、お母さんは寝坊をしまい私も家を出る時間が遅くなってしまった。私は早く学校に行きたかったので「学校遅れちゃうから早くしてくれない?」とつい強い口調で言ってしまった。お母さんは「ごめんね、ちょっと待ってね。」と何回も言い続けた。私は待つことができずお弁当を持たずに学校へ行った。

その日の昼、私がコンビニで買ったのを食べていると友達が来て「今日はお弁当じゃないの?」と言われたので「そうだよ、今日はお母さん仕事だから」と嘘をついた。

友達は「仕事の日もコンビニになるよね。私のお母さんも仕事の日も早起きしてお弁当作れないって言った。」と言った。私はいつも六時起きで起きる頃には既にテーブルにお弁当が置いてある。だからお母さんが何時に起きて何時に作り始めているのか今まで知らなかったのだ。

その日学校から帰宅し、恐る恐る何時にお弁当を作っているのか聞いてみた。お母さんは「いつも四時半、仕事の日も四時」と答えた。私は固まってしまった。まさかそんな朝早くから私のためにお弁当を作ってくれているとは思ってもなかった。

「今日のお弁当どうしたの?」と聞くと、「あれはお母さんのお朝ごはんにしたよ。」と少し涙ぐみながら言った。ここで私はお弁当のありがたみを知った。私は素直に謝るのが苦手だったので、どのようにしたら仲直りをする事ができるのか考えた。そこで、私も四時に起きてお弁当をお母さんのために作ろうと考えた。しかし、当時料理は苦手で卵焼きも焦げていて見栄えも台無しになってしまった。落ちこみながら起きてきたお母さんにお弁当を差し出し「前のごめんね。」と初めて素直に謝ることができた。その時のお母さんは驚いた顔をし、おいしくないはずのお弁当を泣きながら食べ「おいしいよ、ありがとう」と言ってくれた。

お弁当は私達にとってはあたり前のものだ。しかしそのお弁当には人と人とを繋げる素晴らしい力がある。

## 👑 日清オイリオ賞 👑



元木 月 (村山市立葉山中学校 3年)

## お弁当の力

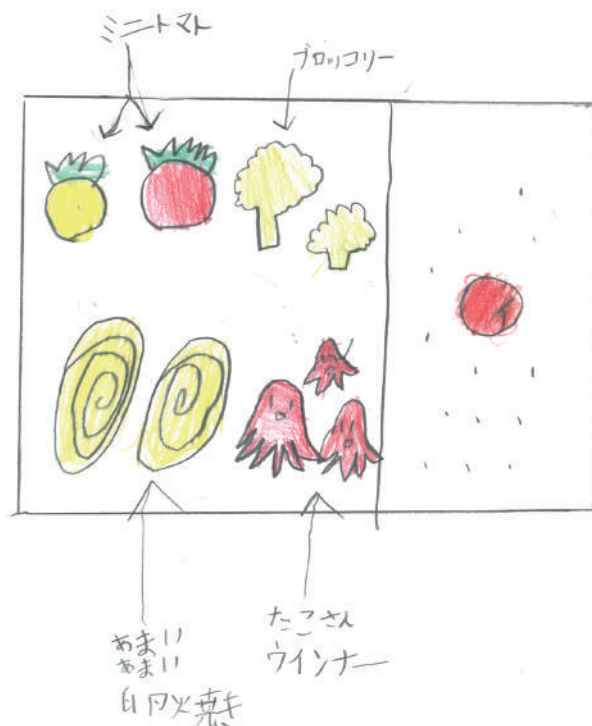
お弁当には、不思議な力がある。これは、今回初めてお弁当をつくり、食べてもらって気づいた事である。

私は、今まで自分でお弁当を作ったことなど一度もなかった。毎回のように母に作ってもらっていたし、お弁当のことを深く考えたこともなかった。だからこそ、今回お弁当を作ることにとても苦戦した。メニューを決め調理し、彩りやバランスを考えてお弁当箱へと詰めていく。母は、こんな大変なことを毎日していると思うと頭が上がらなくなった。日々、忙しい中で家族の健康と栄養バランスを考えてお弁当を作る母は、憧れの存在になった。

私は、今回姉にお弁当を作ることにした。姉は介護施設で働いており、コロナウイルスの影響で人手不足になり、とても忙しそうにしている。そのため、お弁当を食べて栄養をとってもらうために作ってみようと思った。栄養満点のお弁当を作るために意識したポイントは、今まで何度も聞いたことがある「赤・黄・緑のバランス」だった。栄養のある食べ物を調べると、最終的には赤・黄・緑の食材が揃い、改めて重要性を感じた。普段、お弁当を作らない私にとっての料理はとても難しかったが、姉が元気になるようにと一生懸命作った。作っていく上で、量を間違えたり見た目が悪くなったりなど戸惑うこともあった。それでも最後まで作って、お弁当に全てを詰めたときは嬉しさと達成感でいっぱいだった。作ったお弁当を姉に渡したら、姉はとても喜んでくれた。姉が仕事から帰ってきて「おいしかったよ。お弁当のおかげで頑張れたよ」と言ってくれた。嬉しくて仕方がなかった。初めてお弁当を作り、そのお弁当が姉の力になったようで、それがすごく嬉しかった。「誰かの力になる」とはこういうことなのかもしれないと感じた。

私は、お弁当を作り食べてもらってお弁当の力を発見したように思える。作る人は、食べてくれる人を考え一生懸命取り組むことができる。食べる人は、食べただけで不思議と元気になれる。作る人が相手を思えば思うほど、お弁当はおいしくなる。そう思った。また、お弁当をきっかけに会話が広がるのも良いところだと思った。「おいしかったよ。」の一言だけで作った人は救われるのだ。その一言から色々な話題に繋がれば良いことづくしだと思った。私はお弁当が好きだ。「お弁当」という言葉を聞いただけでわくわくするからだ。きっとこのように思えるのも母が毎回毎回、愛情を込めて作ってくれたからなのだろう。もっともっと感謝しなければと思ったしこれからは自分でも作ってみようと思えた。このように思えるのも、お弁当のおかげ。やっぱりお弁当には不思議な力がある。

👑 共同通信社賞 👑



藤井 雄大 (札幌市立平岸高台小学校 4年)

ぼくは卵焼き職人

ぼくと妹が通っていた幼稚園は、週に三回お弁当の日があった。料理が好きではない母のお弁当はいつもワンパターンだった記憶がある。ぼくが小学校に入ると、弁当が必要なのは妹だけ。母の弁当はさらにやる気をなくし、ほぼ毎回ミートボールかウィンナー、卵焼き、ブロッコリー、ミニトマトだった。色のバランスは良く、見た目は、悪くない。

ワンパターンな弁当については、ぼくも妹も不満はなかった。しかし妹には一つ問題があった。毎回卵焼きを残すのだ。

妹は卵焼きがきらいなわけではい。妹の好きな卵焼きは母が作るものよりも、もっともっと甘い味付けのものなのだ。ぼくはためしに作ってみることにした。卵にたくさんのさとうと少しの塩を入れた。巻き方はわからないからユーチューブで勉強した。初めてでもなんとなくうまく焼けた！！

何も言わずに妹の弁当に入れてみた。その日、帰ってきた妹が「ママ、今日の卵焼き甘くてすごくおいしかった。」と言っていたのが聞こえた。やった！うれしい！ぼくのうで前が認められたんだ。

「ぼくが焼いたんだよ。」と言うと、妹は、「そうなの？だからいつもよりおいしかったんだ！」と言ってくれた。それ以来、幼稚園の弁当の日、ぼくは早起きして卵焼きを作った。妹は卒園するまで残さず食べてくれた。

妹も小学生になったので、今はもうお弁当はいらない。卵焼きはたのまれて夜ご飯のおかずとして作ることがある。みんな、おいしいと言いながら食べてくれるのでうれしい。

卵焼き職人はこれからも続けていくつもりだ。

## 👑 全国小学校家庭科教育研究会賞 👑



平田 知友楽 (伊江村立伊江小学校 6年)

## 弁当の日をきっかけに

ぼくたち伊江小学校は、年に三回弁当の日があります。弁当の日それぞれにテーマがあり、そのテーマに合わせて作ります。

ぼくは、この弁当作りをきっかけに、母へ対する気持ちが深まりました。

弁当の日当日、母は朝五時半に起き、前日の夜用意しておいた材料を出します。栄養バランスと色どりを考えて料理をしているのだと話していました。

メニューは、チキンの照り焼き、ゴーヤーチャンプルー、ニンジンしりしり、卵焼き、紅いものもくず天ぷら、ちくわチーズ、枝豆にトマトです。中でも卵焼きは、想像していた以上に難しかったです。

まず、熱したフライパンに、油をひいて卵液を入れます。それから、焼き過ぎないうちに巻いていく作業を、母が手伝ってくれました。一緒にフライパンを持ち、巻くタイミングを教えてくださいました。

いつも、口うるさい母ですが、母の優しさを感じました。

できあがった弁当は、緑、黄、赤、紫と、色とりどりの弁当で、見てもおいしい弁当に仕上がりました。色どりを考えているという母の言葉そのままです。

一緒に作ったというもあり、食べてみると味も格別でした。

母は日頃から、仕事をしながら、ぼくたち家族のために、そうじや洗たく、ご飯を作ったり、その後片付けもしています。平日は、座るひまもないほどです。そんな母を見ているのに、母の言葉に反こうしている自分が、情けなくなりました。

弁当の日をきっかけに、料理をする大変さを実感することで、母のぼくたちに対する愛情の深さを、改めて知ることができました。

これからは、自分ができることを手伝い、母が少しでも休められるように心がけます。



## 👑 全日本中学校技術・家庭科研究会賞 👑



稲永 こはる (志免町立志免中学校 1年)

### マスキングテープとお弁当

私が初めて作った「お弁当」は、いつもお仕事をがんばっている父に向けてのお弁当です。

幼い頃だったので、母に手伝ってもらいながら懸命に父を思いながら作りました。そのお弁当の中身は、たんぱく質を取るためにしょうが焼きに、ビタミンを取るためにブロッコリー、炭水化物にご飯、無機質にひじき、脂質はしょうが焼きに使う油でとりました。

幼い頃は、5大栄養素のことを知らず、母に作るものを決めてもらって作りました。

今になって母がちゃんと5大栄養素を意識して作ってくれていたことに気づきました。

作ってみて大変だったことは、火の調節や材料の大きさ、そして最後のお弁当につめる作業です。火の調節では、卵焼きを巻くのが難しく、少しこげてしまいました。

材料の大きさではしょうが焼きの玉ねぎを切ったけど、まばらな大きさになりました。そして最後にお弁当につめる作業では、アルミカップや紙カップにつめて、お弁当がゆれても、材料が混ざらないようにつめつめに入れることをがんばりました。

つめ終わったあと、ふたをし、そこにマスキングテープをはって、その上に字を書きました。

「お父さんへ。お仕事いつもお疲れ様!! お弁当食べてね。」という、自分が作った記念に、父にあげました。帰って来た父から、ただいまより先に、「お弁当おいしかったよ。」と言ってくれました。

初めて作ったお弁当を、喜んでもらえたので、作ってよかったと心の底から思います。ですが、お弁当箱には、マスキングテープがありませんでした。はがれたりしたのかもしれない。私は少し残念な気持ちでいました。

それから数年後、たまたま父の働いている会社に行くことになりました。

私がふいと父の机を見た時、あのマスキングテープが大事そうにはられていました。

それほど喜んでもらったんだと私はうれしくなりました。

初めての手作り弁当の思い出は、私の宝物です。

## 👑 特別賞 👑



千葉 直大朗 (気仙沼市立唐桑小学校 3年)

### ぼくのつくせいコロッケをごちそうしよう

ぼくは夏休みにコロッケを作りました。

夏休みに仙台のおじいちゃんとおばあちゃんの家に行って、おばあちゃんにコロッケを作ってもらうやくそくをしていたけど、コロナがはやっていたので、仙台に行けなくなってしまいました。

ぼくはとってもがっかりしたけど、コロッケがどうしても食べたかったし、お母さんのたん生日が近かったのでお母さんに食べてもらいたかったから、ぼくが作ってあげようと思いました。

ざいりょうは玉ねぎとひき肉とじゃがいもです。じゃがいもはお父さんが畑で育てたじゃがいもです。

まず皮をむいて、ゆでた後につぶします。ひき肉とみじん切りにした玉ねぎをいためてしおとこしょうとしょうゆで味つけをしてじゃがいもとまぜます。小ばんの形にして、小麦こ、たまご、パンこのじゅん番でつけて、ゆっくり油に入れて色が少しかわったら、とり出します。お皿にもりつけて家族全員で食べました。

ぼくはさい高においしいコロッケだと思ったし、お母さんは、「おいしいね。また作ってね。」と言いました。

家族もみんなおいしそうにおかわりをしていました。

ぼくは、自分が作ったごはんで家族がとてもよろこんでいる顔を見て、とてもうれしかったです。

次は仙台のおじいちゃんとおばあちゃんの家に行って二人にぼくのつくせいコロッケをごちそうしたいです。きっとおいしくてびっくりすると思います。

## 👑 特別賞 👑



林 誠ノ亮 (成城学園初等学校 2年)

### ちやあちゃんのためのバースデイ弁当

ちやあちゃんは、ぼくのひいおばあちゃん、九十七さいです。少しはなれた大きさにすんでいます。

ちやあちゃんは、ぼくに会うたびに、

「誠ノ亮ちゃんは、ほんまかわいい。せかいーや」

と言ってくれたけれど、さいきは、ぼくの名前をわすれてしまったようです。

ちやあちゃんに、いつまでも元気でいてもらいたいから、大きさにみんなであつまるたびに、一年に何ども、ちやあちゃんのたんじょう日会をします。

だから、今回もちやあちゃんのためにバースデイ弁当を作りました。

しゅんの食べものを食べると元気が出るから、えだまめと、とうもろしのごはんに、ちやあちゃんのスきなカボチャのもの、やわらかいハンバーグを作って入れました。

おくらとうすやき玉子はうすく切るのがむずかしかったです。

ちやあちゃんいつまでも元気でいてね。

## 👑 特別賞 👑



舘沼 由人 (江戸川区立平井西小学校 5年)

### 人生初! のりまき弁当

ぼくは今までで弁当を作ったことがありませんでした。しかも、料理すらまともにやったことがありませんでした。

今回この宿題をするにあたり、何を作ろうかまよっていたときにぼくのお父さんの仕事が「おすし屋さん」なのを思い出し、作り方を教わりました。

ぼくはおすしが大好きで、しょう来お父さんと同じおすし屋さんになりたいと思っていましたが、実際にやってみるととてもむずかしかったです。

調理する前に手を洗ったり、まな板を洗ったり、具材をきれいに切って用意したりする事がたくさんあり、大変でしたがとても楽しかったです。

お父さんに包丁の使い方や、たまご焼きの作り方やまきもののやり方や、もりつけの仕方などいねいに教えてもらいました。

見るのとやるのでは全然ちがくて、大変でした。でも、お父さんはお客さんの前でもっと大量の魚などをさばいたり、仕込んだり、にぎったりすると思うとすごい大変なんだなと思いました。

ふだんはいつも面白い事ばかり言っているお父さんですが、改めてかっこ良いなと思いました。そして、初めて作ったまきもの弁当をお母さんや弟がとてもよろこんで食べてくれたことがとてもうれしかったです。

改めて、おすし屋さんになりたいと思いました。そしておすし屋さんにもしなれたらば、しょう来自分の子供にも教えてあげて一緒に作ってみようと思いました。

## 👑 特別賞 👑



早水 天門 (田原本町立南小学校 6年)

### お弁当の日

僕は、お弁当の日が楽しみにしすぎて、ねむる時の時間が12時を回っていました。ねむれなくて、お母さんに、「はよねなさい!! 明日はお弁当の日やで!」とおこられてしまいました。

そしてお弁当の日、当日きのう12時を回ってからねむったせいか、ねぼうしてしまいました。

お母さんも、ねぼうして、お弁当を作っていないくて、二人ともパニックで「やばい!! どうしよう!!」と続けて、僕が、「どうする!! やばいほんまにやばい!!」「とりあえず、買い出しいってくるわ!!」とお母さんが7時にオークワに出かけて行きました。

そしてお母さんが帰ってきたのは、なんと7時20分!! 学校に行かなくてはならない時間は、7時45分です。お母さんに言われて、とりあえずたまごやきを作りました。

「お母さんは、ソーセージ作るから!!」僕は、お母さんが作ったものをつめこんで、なんとか7時40分にはつめこみが終わりました。

お母さんと、「なんとか終わったなー」と僕が言うと、お母さんが「あ!!」と言って、僕がなに?と言ったら「お米たいてない!!」と言って、もうお終いと思ったらきせきがおきました。

となりの人が、「朝からごめんなさいねーこれもしよかったら食べてー」とピンポンをおしてきて、五目ごはんを差し入れてくれました。そしてお母さんは思いつきました。

「この五目ごはん、お弁当つめれへん?」その時おとなりさんに感謝しかありませんでした。

そして、お弁当の時をむかえて、いち番おいしかったのは、五目ごはんでした。

## 👑 特別賞 👑



宮崎 柚菜 (綾川町立滝宮小学校 4年)

### 弟のために時間をかけて作ったりにゅう食

わたしには妹と弟がいます。妹は1年生で、弟は生後6カ月です。そして、最近弟がりにゅう食を食べるようになりました。そこで、わたしは、りにゅう食を作ってみることにしました。

まず、お米をたいてつぶしたどろどろのおかゆを作りました。すりこぎでお米をつぶす時、こぼさないように、全部つぶれるようにするのがとても大変でした。次ににんじんペーストを作りました。切ったにんじんをゆでてこし器でつぶしました。にんじんはゆでてやわらかかったのに、スプーンでつぶすととてもかたかったので、予想以上に力が入りました。他にも、おなじようにかぼちゃをペーストじょうにして作りました。1週間分を作るのに午前9時ぐらいから正午12時ぐらいまで時間がかかりました。

ちょうど弟のごはんの時間になったので、さっそくおかゆとかぼちゃをあげました。おかゆは1週間前からあげていたもので、すんなり食べてくれて、かぼちゃは初めて食べました。最初は少しいやな顔をしていましたが、最後まで全部食べてくれました。かぼちゃは初めてで、食べてくれるか心配でドキドキしていましたが、最後まで全部食べてくれたのでうれしかったです。わたしは小さいときに、こんなに長い時間をかけて作ってくれていたことを知りました。今まで好ききらいなく食べていたことに感しゃして、これからも毎日いっぱいごはんを食べたいなと思いました。

## 👑 特別賞 👑



鈴木 万葉 (大仙市立仙北中学校 3年)

### 食と人とのつながり

小学校のときから、運動会など特別な行事のときはいつも弁当を持参していた。母が私に持たせてくれた弁当は、冷凍食品が大半で冷たかった。給食の時間に友達の弁当をのぞくと、キャラクター弁当や見た目が可愛い弁当で正直羨ましかった。

ある日私は、母に思い切って「全部手作りにしてよ。友達の弁当は可愛くて、美味しそうなのに。」と言ってしまった。私の言葉を聴いて母は静かに怒りながら、「朝の時間がない間につくってるのに、何その態度。そんなこというならもう弁当つくらないよ。」と言った。当時の私は、弁当をつくる大変さがわからなかったのも、申し訳なさより何故母があんなに怒っていたのか理解ができないままだった。

中学一年生になって家庭科の授業で、弁当を自分でつくる「お弁当の日」があった。小学校の頃は料理をしてこなかったため、何からしたらいいかすら分らなかった。先生の話聞きながら、手順を考え、何を作るか一から考えた。それだけで私の脳はパンクしそうだった。お弁当の日の朝になった。結構遅めに起きてしまったので、母に手伝ってもらいながらつくった。登校時間ギリギリに完成して、冷凍食品も多めの弁当になった。

初めての弁当作りを通して気付いたことがある。それは弁当に込められた思いだ。私の母は時間がない中でも、私のために栄養価が高い野菜などをたくさん詰めてくれた。初めての弁当づくりでそのことがわかった。今まで冷たいと思っていた弁当も母の愛情の込められた温かい弁当だったのだと気づくことができた。

中学一年生の経験から、中学二年生、三年生では、普段から料理をするようになった。最近ではカレーライスを作った。食べてくれる人のことを考えながら隠し味などを入れてつくった。手が空いているときは食器を片付けるようにしている。これは家庭科の授業で学んだことだ。完成したので、ご飯と一緒に盛り付けた。母が一口食べると、「すごく美味しい。」と言ってくれた。それに続いて父も食べる。すると「うん。美味しい。毎日食べたい。」と言ってくれた。家族のその言葉がとても嬉しかった。そういうさりげない言葉でもつくった側からしたらとても良い気分になる。だから私も食前、食後には大きな声で「いただきます。」「ごちそうさま。」を言って感謝を伝えている。お弁当の日を通して食の大切さとありがたみに気づくことができた。なのでたまには母に面と向かって「忙しい中美味しいご飯をつくってくれてありがとう。」と伝えてみようか。照れ臭いけど。

## 👑 特別賞 👑



鎌田 彩姫 (江戸川学園取手中学校 2年)

### おじいちゃんの味

私は今回のお弁当の日はチャーハンを作りました。

なぜチャーハンを作ったかというとき5歳の時島根県に住んでいたおじいちゃんが夏休みにチャーハンを作ってくれてそれが美味しくて今もずっと覚えていたからです。今はもうおじいちゃんはその後すぐにはなくなりましたが、どうしてもおじいちゃんのチャーハンを再現したくてお母さんにダメ元で作り方を聞きました。お母さんもほぼ覚えていないなかおじいちゃんの作ってくれたチャーハンを思い出しながら再現してくれました。そのチャーハンを食べた時おじいちゃんとの思い出が蘇ってきました。受験やコロナの影響でお墓参りに行けない年が続いていたので、おじいちゃんを思い出すことができ嬉しかったです。

これはお弁当の日の次の日に聞いた話なのですが「忘れてたけど、お母さん一回おじいちゃんから作り方教わってその時おじいちゃんもおじいちゃんのお父さんに教わってたんだって」と言っていました。お母さんのせいで烏屋尾家が代々伝えてきたチャーハンの味が途絶えるところでしたが、このチャーハンのレシピを頑張って覚えておじいちゃんの思い出と共に忘れないようにしたいと思いました。

私は野菜が嫌いなので今回のお弁当の日は野菜が入ってないように見えますが私の詰め方が悪いだけでチャーハン自体は野菜嫌いだった私やお母さんのためにおじいちゃんが細かく野菜を切ってくれたところも再現しています。

チャーハンは一般的に簡単ですぐできると言われていますが野菜を細かく切ったり炒めたりとにかく手間がかかりました。おじいちゃんがこんなにてまひまかけて作ってくれたと思うと無口で不器用なイメージだったおじいちゃんの新しい一面を知れた気がしました。ちなみに私が作ったチャーハンのみじん切り野菜は下の方に埋まっています。今回のお弁当の日を通して料理と思い出はリンクすると思ったので今後イベントなどには自分でも作ってみようと思いました。



👑 特別賞 👑



大木 新 (東京農業大学第一高等学校中等部 3年)

タチウオの料理

私の父は、釣りが趣味である。月に一回程度週末に海や河原に行き、ハタやブラックバスを釣っているらしい。私は釣りの楽しさがよく分からなかった。父はどうして長い時間をかけて釣り場へ行き、魚が餌にかかるまで待ち、釣ったとしてもスマホで写真をとって逃がして家に帰る…なんてことをしているのだろうか。食べられる魚ならまだしも、食べられない魚を釣っても楽しいのか疑問に思っていた。私は魚は釣るより食べる派なので、父に食べられる魚を釣ってきてもらいたかった。

ある日、この話を父に話すと、「来週末タチウオと一緒に釣りに行こう」と、言うのだ。いきなりの提案だったので少し考えたが、昔も河川敷に何度か父と釣りに行ったことがあり、何となく釣りの流れと感覚は覚えていたので、私はその提案に乗った。

当日、私たちは午前4時に東京湾へ向かった。日の出前、暗い時に出発した。私は不安だった。初めての小型船に乗り、慣れない大きな釣り竿で細長くて巨大なタチウオを釣り上げる。となりには見知らぬ人もいて、糸が絡んだらどうしよう。初めての事はやはり怖い。そんな時に父は「分からなくなったらサポートするから安心して。」と声をかけてくれた。

海に出てから一時間程度経った頃、初めて私の竿に引きがかかった。父のアドバイスも聞きながらルアーを徐々に巻いていき、ついにタチウオを引き上げた。周りの人たちは拍手をしてくれた。タチウオは日光に照らされてキラキラ輝き、私は釣りの楽しさと釣り上げた喜びに胸がいっぱいだった。

その日は夕方には家に帰った。父は8匹、私は4匹、計12匹釣った。私の本命はここからだ。釣ったタチウオをさばいて調理する工程に入る。一日目でさばいて下準備をして、二日目の夕食にタチウオの料理を食べる。私は父と一緒にキッチンでタチウオをさばいた。

翌日、私たちは釣ったタチウオで天ぶらをつくった。油は危ないということで母のサポートも入り、家族総出で作業に取りかかる。天ぶらやタチウオのムニエル、タチウオの梅しそ和えなど、次々と料理が食卓にならべられていく。久しぶりに家族と食事を作る体験を前にして、私はとてもワクワクしていた。

いざ、実食する。もちろんおいしい。ただ、おいしいだけではない。このおいしさには家族の温かさも含まれていた。最近家族とどこかへ行くこともなくなり、日々距離が離れていくのを感じていた。父もそうだったのだろう。だから私を釣りへと誘ってくれた。

釣って、料理して、食べる。この過程が私と父と母の距離を近づけた。食事の時のたわいもない会話や、自分でつくった料理を食べること、家族と共有する時間全てが楽しかった。私はこれ以来、家族と過ごす時間をより大事にするようになった。あの長いタチウオが、紐となり私たちの絆を強く結んだのだ。

## 👑 特別賞 👑



栗田 夏帆 (町田市立真光寺中学校 1年)

### 魔法の宝石箱

私の祖父母は料理という魔法でみんなを笑顔にすることができる。二人のレストランでみんなを笑顔にしている。昔はお弁当でも魔法を届けていた。お弁当は魔法のかけらがたくさん詰まっていた。色とりどりの具材、食べても飽きない味の豊富さ。そして五大栄養素は必ず入っていた。例えば、肉があるなら魚、しょっぱいものがあるなら甘いもの、煮物があるなら焼き物、揚げ物を入れる。この工夫の詰まったお弁当を祖父は一日、約三十個、磨いた熟練の技でテキパキと心を込めて作っていった。そして、ここからは祖母にバトンタッチ。魔法がかかった温かいお弁当を大切に風呂敷に包み、届け先まで配達する。車で約二・五キロの道のりを時間通りに走る。目的地に着くと、三十個ほどのお弁当を台車に移し、食堂へ運ぶ。母に当時の話を聞くと私も一緒に行ったことがあるそうだ。毎日重いお弁当を運んでいる祖母は、七ヶ月の私とお弁当を台車に乗せても軽々と運んでいたそうだ。お弁当を届けると、楽しみに待つお客さんから「ありがとう」と「笑顔」が溢れていたと祖母は話してくれた。

祖父母の魔法はお弁当を開ける前から、人々を笑顔にする。それを知り、私は味や見た目もさることながら、相手を想い、まごころ込めて作る気持ちが大切だと感じた。

それから数年がたち、私は中学校一年生になった。祖父母と一緒に届けたお弁当の思い出は消えかけていた。そんな時、お弁当の日が私の記憶をよみがえらせてくれた。もう、祖父母はみんなにお弁当を届けていない。だったらやることはただ一つ。祖父母の想いを今度は私が繋いでいく。みんなが笑顔になるお弁当を作る。その日、私は家族にお弁当を届けた。祖父の教え通り、肉（生姜焼き）を入れたら、魚（鮭）。しょっぱいもの（冬瓜と油揚げのひき肉あんかけ）をいれたら、甘いもの（卵焼き）。焼き物（生姜焼き）があれば揚げ物（油揚げ）。タンパク質（生姜焼き、鮭）、炭水化物（ごはん）、ビタミン（ブロッコリー）など五大栄養素もばっちりおさえて作った。私なりの魔法とまごころを込めて。

はじめは母と父が食べた。「いただきます」一口食べたたん、二人からは「おいしい」という言葉と「笑顔」がこぼれた。一番言ってほしかった言葉。なんだかほっとして、私も笑顔になっていた。

やはりお弁当には人を幸せにする、魔法の詰まった宝石箱だ。

👑 特別賞 👑



松田 蓮那 (浦添市立浦添中学校 2年)

お姉ちゃんの野菜炒め

私には六才離れた妹がいる。妹は、ほとんど風邪もひかないくらい健康だが、ご飯をあまり食べないから体が小さく、クラスでは一番背が低い。食事の時は、おしゃべりばかりでしっかり食べないため、よく母に叱られることも多い。

小さい体の妹を気にして私の両親は、妹にご飯を食べさせることにいつも気を使っている。これなら妹が食べてくれそうだから、以前たくさん食べていたからまた買ってみよう、など。私もつい妹にしっかり食べないと駄目だよ、なんて言ってしまうのだった。そんな妹が時々思い出したかのように食べたいというメニューが一つある。それは、今から二年前、小学校六年生の家庭科の宿題として私が作った野菜炒めである。

当時の私は、料理なんてしたことなかったし、包丁の正しい持ち方さえ良くわかっていなかった。何から始めたらいいのか分からず、家庭科の教科書やノートを繰り返し読み調理の仕方を覚えることにした。しかし、やってみようとするとなんか一人で何もできず、結局隣で母に教えてもらいながら作るようになった。野菜炒めの作り方は、一見、とても簡単そうに思えた。野菜や肉を一口サイズに切り、油で炒め塩コショウで味付けをする、という手順だ。でも、人参は固く切りにくいし、玉ねぎを切る時は目がしみて涙が出てきた。具材に火が通ったかどうかよく分からないし、一番難しかったのは味付けだ。「塩コショウを適当にふりかける」と母は言ったが適当がどのくらいなのか私には全く分からなかった。だから何度も味見をして、一番これだ!と思えるところで味付けをストップした。母が作る何倍も時間がかかったと思う。

野菜炒めを作った後、とても疲れていて家族みんなに食べてもらうことも正直たいしてあまり期待をしていなかった。しかし、一口食べて最初に「美味しい!」という言葉を書いてくれたのは妹だった。

妹は、「美味しい!お姉ちゃんが作ったの?すごいよ!」と少し興奮気味に話しながら、私が作った野菜炒めを独り占めする勢いで食べ続けた。その姿を見た私は本当に嬉しくなった。初めての料理でとても難しく疲れていたけれど、がんばって作って本当に良かった、と思った。美味しそうにたくさん食べる妹を見て、母も嬉しそうだったのを覚えている。

妹はそれからというもの、時々「お姉ちゃんの野菜炒め」が食べたいと言ってくれる。しかし、部活や勉強で忙しいということを理由に、「今度ね」と言い続け作ってあげられなかった。でも今はせつかくの夏休み、また興奮気味に美味しく食べる妹の顔を見るため、「お姉ちゃんの野菜炒め」を作ってあげようと思う。

## 👑 特別賞 👑



林 圭太 (竹富町立鳩間中学校 2年)

### 鶏からのクリスマスプレゼント

僕は鶏から最高のクリスマスプレゼントをもらったことがあります。

当時、僕と弟で作った鶏小屋で、鶏を七羽飼っていました。僕は鶏の散歩をしたり、鶏糞を取り除いて土を入れたり、冬には六リットルのお湯で凍った水を溶かして水やりをしたりして、愛情をかけて育てていました。

ところが、クリスマスがやってくると、そのうちの二羽をお父さんと弟が絞めました。鶏は首を切り落とされた後も羽でもがいていたので、僕は「もっと生きたい」と訴えているんだろうと感じました。残された若い雄鶏は、父親の鶏と仲間が殺された瞬間から「コケッコッコー」と、悲しそうにずっと泣いていました。あたかも「父さんたち、どこお？」と叫んでいるようでした。

その声を聞くまで、「鶏を殺しても残された鶏たちの反応はないだろう」と、思っていました。しかし、そんな事はありませんでした。鶏もとても淋しがっていました。その淋しく、また不安そうな雄鶏の鳴き声を聞くと、僕の胸がとても痛くなり、涙腺が緩みました。しかし、僕には何も出来ることがなく、ただそれを聞いている他にはありませんでした。けれども、僕は必死に二羽の毛をお湯の中でむしり、裸にした鶏をさばきました。

一羽は冷凍保存し、もう一羽はクリスマスディナーとして唐揚げにしておいしく食べました。唐揚げは市販の鶏肉と比べられないほどジューシーで、とても美味しく最高の気分でした。二羽の鶏は小柄でしたが、砂肝が期待以上に大きく、嬉しかったのを覚えています。砂肝は塩胡椒をまぶして焼いて食べました。僕は鶏の部位では砂肝が一番好きで、僕たちで育てた鶏の砂肝を食べることができて幸せでした。

鶏たちのお陰で、命を頂く事の大きさを知り、また命の重みを感じました。従って、普段の食事や給食などでお肉や卵を食べる時には、命を頂いたという意識をもって、感謝して食べていくべきだと学びました。その学びこそが、鶏からの最高のクリスマスプレゼントとなりました。

## 小学生の部

### 👑 学校賞 👑



#### 枕崎市立枕崎小学校 (校長 平川貴之)

本校では、高学年が夏休みの課題として「お弁当を作ろう!」に取り組みました。これまで学習したことを活かしながら、お弁当を作る楽しさを学びました。また、夏休みの課題としたことで、家族と触れ合う機会にもなりました。お弁当の彩り、栄養バランス、調理の出来栄などを意識して作りますが、お弁当に込める想いやお弁当に人がどう関わるかが大事だと、学校では児童に話しています。例えば、家族で山登りに行った児童が作ったお弁当は、おにぎり、たまごやき、ウィンナーというシンプルなものでしたが、山頂で家族と一緒に食べたお弁当の味は格別だったようです。お弁当が更に山登りや家族との触れ合いを豊かなものにしました。児童が作るお弁当はそもそも価値あるものですが、お弁当に込める想いやお弁当にまつわる体験、そして他者の想いなどが、更にそのお弁当を価値づけると思います。

今後も「お弁当を作ろう!」の取組を続け、お弁当を介して人と児童が関わり、認め認められ、感謝したり感謝されたりする喜びを感じられるような学びを大切にしていきたいと思います。

## 中学生の部

### 👑 学校賞 👑



#### 岩国市立玖珂中学校 (養護教諭 藤島 愛子)

本校がお弁当の日に取り組み始めて10年、当初は多くの課題をかかえながらも意思ある職員により続けてきたと聞いています。

現在は年に1回の挑戦に意欲を高め、有意義な取り組みとなるように全校体制で実施しています。

今年度は、食育に力を入れる期間を10月19日からの1か月間とし、11月7日(月)をお弁当の日を設定。お弁当だよりで保護者に理解と協力をお願いをしました。10月25日(火)と27日(木)には食育講演会を開催し、食べ物が心や身体にどう影響しているか等を学びました。家庭科の授業では、お弁当箱の選び方やお弁当作りのポイント・手順等を伝え、学級では担任とも連携し、計画シートを作成する時間を設け、お弁当の話題で盛り上がりました。学校全体で食べ物のありがたさを考えたこの期間をととても幸せに思いました。何より生徒の熱量と保護者の協力があってこその実現だと思っています。今回、応募の作文を書くことで改めて食について考える機会を得ることができました。

## エピソード作文審査を終えて (2023年2月)

おいしい記憶が人生を豊かにすることを知っている大人たちが審査をしました。作品を応募することであなたたちは未来につながる大切なものをすでに手にしています。自分が作った料理が周りの人を笑顔にすることを体験しているからです。3年目を迎えた全国的なコロナ禍のなかでも、自分の力で家族や地域を明るくしていけるのです。たくさんの作文を読んで審査することは大変な作業でした。でも未来への希望を膨らませてもらったのですから、まずは応募をしてくださったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。

さらに、多くの応募の中から、見事に入賞された皆さんに心からお祝いを申し上げます。と共にお礼を申し上げます。料理を作る意味、食べてもらう喜び、何気ない日常の食事のありがたさ、そして過去のおいしい記憶の再現への挑戦や食材の命への慈しみ、世代間・兄弟間相互の弁当作りと、多様な応募作品に包まれて、審査員間でも「こんな幸せな場面が、子どもたちの行動から生まれるのだ」と感動していたのです。

これらの受賞作品が、もっと多くの子どもたちを台所に立たせるために活躍してくれることを思うとうれしくなってきます。

竹下和男

## 応募校一覧

### 小学校

#### 都道府県 学校名

北海道	旭川市立雨紛小学校
北海道	札幌市立平岸高台小学校
宮城県	気仙沼市立唐桑小学校
秋田県	大館市立城南小学校
福島県	桜の聖母学院小学校
茨城県	筑西市立上野小学校
東京都	江東区立第五砂町小学校
東京都	宝仙学園小学校
東京都	成城学園初等学校
東京都	江戸川区立平井西小学校
東京都	豊島区立朝日小学校
神奈川県	函嶺百合学園小学校
新潟県	三条市立須頃小学校
長野県	安曇野市立穂高南小学校
長野県	上田市立清明小学校
岐阜県	高山市立山王小学校
岐阜県	北方町立北方南小学校
静岡県	磐田市立磐田北小学校
愛知県	豊明市立中央小学校
京都府	京都市立梅小路小学校
兵庫県	尼崎市立園田北小学校
兵庫県	尼崎市立武庫東小学校
奈良県	大和郡山市立矢田南小学校
奈良県	田原本町立南小学校
奈良県	近畿大学附属小学校
和歌山県	紀美野町立下神野小学校
香川県	綾川町立滝宮小学校
愛媛県	松山市立日浦小学校
福岡県	福岡市立大楠小学校
福岡県	福岡市立若宮小学校
福岡県	古賀市立千鳥小学校
福岡県	福岡市立田島小学校
福岡県	福岡市立舞鶴小中学校

福岡県	福岡市立西高宮小学校
福岡県	宇美町立宇美東小学校
宮崎県	門川町立門川小学校
宮崎県	宮崎市立本郷小学校
鹿児島県	枕崎市立枕崎小学校
鹿児島県	与論町立茶花小学校
鹿児島県	与論町立与論小学校
沖縄県	北大東村立北大東小中学校
沖縄県	南風原小学校
沖縄県	石垣市立平真小学校
沖縄県	竹富町立小浜小学校
沖縄県	伊江村立伊江小学校
沖縄県	読谷村立古堅小学校

東京都	足立区立第一中学校
東京都	晃華学園中学校
東京都	大田区立東蒲中学校
神奈川県	茅ヶ崎市立鶴嶺中学校
神奈川県	茅ヶ崎市立鶴が台中学校
新潟県	三条市立第四中学校
三重県	津市立橋北中学校
京都府	京都市立旭中学校
大阪府	東大阪市立繩手北中学校
兵庫県	関西学院中学部
奈良県	奈良市立平城東中学校
奈良県	生駒市立大瀬中学校
島根県	大田市立大田西中学校
岡山県	倉敷市立真備東中学校
広島県	東広島市立黒瀬中学校
広島県	東広島市立豊栄中学校
山口県	岩国市立玖珂中学校
徳島県	鳴門教育大学附属中学校
愛媛県	松山市立余土中学校
愛媛県	松山市立日浦中学校
福岡県	志免町立志免中学校
福岡県	志免町立志免東中学校
福岡県	福岡市立北崎中学校
福岡県	福岡市立那珂中学校
福岡県	春日市立春日西中学校
佐賀県	県立唐津東中学校
佐賀県	唐津市立相知中学校
長崎県	長崎市立日見中学校
宮崎県	宮崎市立宮崎東中学校
宮崎県	宮崎市立生目中学校
沖縄県	県立球陽中学校
沖縄県	中城村立中城中学校
沖縄県	浦添市立浦添中学校
沖縄県	糸満市立高嶺中学校
沖縄県	南城市立佐敷中学校
沖縄県	竹富町立鳩間中学校

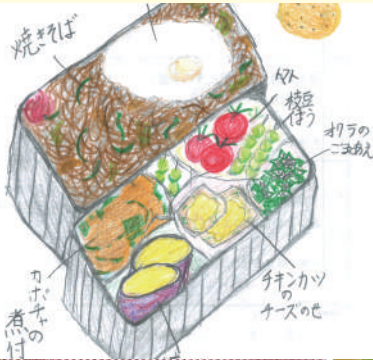
### 中学校

#### 都道府県 学校名

北海道	札幌市立福移中学校
青森県	十和田市立三本木中学校
秋田県	大仙市立仙北中学校
山形県	村山市立葉山中学校
山形県	朝日町立朝日中学校
山形県	西川町立西川中学校
茨城県	江戸川学園取手中学校
埼玉県	鶴ヶ島市立南中学校
千葉県	船橋市立習志野台中学校
東京都	江戸川区立篠崎中学校
東京都	目黒日本大学中学校
東京都	町田市立真光寺中学校
東京都	東京女子学院中学校
東京都	東京農業大学第一高等学校中等部
東京都	日本大学第三中学校
東京都	目黒日本大学中学校

NISSHIN  
**oillio**

“植物のチカラ”



おいしい思い出と、  
新しい挑戦と、  
できた、自信と。



大切な人を思い浮かべてメニューを考えたり、

自由な発想で調理方法や彩りを考えたり。

新しい挑戦にドキドキしてみたり。

つくる、を通して発見できる喜びがある。

こころ、を込めると届く想いがある。できた、そのことが自信になる。

おいしい、と広がる笑顔がある。

だからこそ、これからもおいしい思い出のそばに。

私たちは、日清オイリオです。

この広告は「弁当の日 おいしい記憶のエピソード」応募作品の中から写真とイラストを使用し、制作いたしました。

<https://www.nisshin-oillio.com> 日清オイリオグループ株式会社

春を受けとる人は、  
春を届ける人になる。



高校を卒業して、ひとり暮らしをはじめた。だけど期待していた解放感とはうらはらに、どこか寂しく不安な日々…。そんなある日、宅配便が届いた。段ボールの中からタッパーが一つ。ふたを開けると、お母さんが雛祭りにつくってくれた華やかな「ちらし寿司」が。ぷりぷりの椎茸とえび、錦糸卵が酢飯の上で踊っている。好物のうなぎも。「ちゃんとたべてる？」と同封の手紙。なぜだろう、ちらし寿司に涙の味がまぎった。あれから数年。「ちらし寿司宅配便」が届くことはない。こんどはわたしがつくる番だ。いつか巣立っていく我が子に。料理をつくってもらった人はいつか、つくる人になる。

第1回「あなたの「おいしい記憶」を教えてください」入賞作  
山野兼鈴さんの作品をもとに制作しました。



今日の料理、明日のお弁当、食の思い出。見て、聴いて、参加できる「おいしい記憶」の情報はこちらから。

おいしい記憶をつくりたい。キッコーマン。

**kikkoman**  
おいしい記憶をつくりたい。